

依存先を増やすということ

経営情報学部4年 ^{メグ}堀井 瞳来

2020年4月、コロナウイルス流行の真っ只中に私は多摩大学に入学しました。入学式も中止になり、高校生の時に思い描いていたキャンパスライフは未知のウイルスによって黒く塗りつぶされてしまった、と絶望感に襲われたのを覚えています。世界中の物流が止まるというニュースに急かされ、急いで手に入れたパソコンの画面には会ったことのない100人近くの同級生の顔と授業を行う教員の姿がありました。初めてのオンライン授業は何もかもが新鮮で、ただただ目の前のことについて行くのに必死でした。しかし、オンライン授業はその場の緊張感を感じて共有することや、人と共感しコミュニケーションを取り合うことが難しく、人との繋がりを感ずることのできない、という点ではとても窮屈な空間でした。このままでは何も大学生活で残すことができずに卒業してしまう…という漠然とした不安感から、とにかくオンラインでも出来る色々な活動に参加し、人との交流を積極的に試みようと思いました。そのなかで、寺島実郎学長が主宰するインターゼミは4年生になった今でも続けている活動のひとつです。インターゼミは毎年度グループごとにテーマを決め活動し、1年間かけて論文を完成させるというものでした。何も分からないままスタートした活動でしたが、世代を超えた共同研究ができるインターゼミでは、たくさんの社会人大学院生、学部生の先輩たちや学長の下で学ぶことができ、立場の異なる視点で俯瞰して考える能力や様々な意見を調整する能力を身につけ、自分自身を大きく成長させることに繋がりました。このインターゼミでの経験がなかったら今の自分はないとはっきり言えます。

他にも大学内のアルバイト、インターンシップ、サークル活動、授業アシスタント(SA)など色々なことに挑戦してきました。そこで出会ったたくさんの同級生、後輩、先輩、教員との繋がりはかけがえないもので、今までの私の大学生活に大きな彩りを与えてくれました。また、色々なことに挑戦することは交友関係が広がるのはもちろん、

依存先を増やすことにも繋がります。依存先を増やすことは決して悪いことではありません。何か困ったときに駆け込むことが出来るという安心感に繋がるため、大きな自分の心の支えになります。また、依存する先があるということは、その相手が自分に依存してくる可能性もあります。人から頼られることもあり、そこから自分への自信も生まれます。これからの大学生活の中で、家族以外に1つでもいいので依存先を増やして行くことをおすすめします。

とにかく、授業以外に何か「一つ」大学関係で活動してみてください。視野が広がり、依存先が増えて、成長できます。どんな些細なきっかけでも、自分を成長させてくれるはず…！という一歩を踏み出した経験が、今後の大学生活を彩るかけがえのないものになるはずです。



学園祭での軽音サークル主催ライブ



インターゼミでの発表の様子



インターゼミ懇親会で学長と

挫折から立ち直った私が皆さんに伝えたいこと

グローバルスタディーズ学部 4年 関沼 舞

多摩大学に入学した当初、私の心は絶望に満ちていました。大学受験に失敗し、人生最大の挫折を味わった私はまさに人生のどん底に
いるような気持ちで、なかなか前を向くことができず何に対してもやる気が起きませんでした。そんな中で始まった AEP (英語プログラム)
のオンライン授業。そこには様々な国籍のクラスメイトがいました。はじめは誰が日本語をしゃべれるのかも分からず、AEP のクラスメ
イトと英語だけで会話する日々。想像もしていなかった疑似留学体験ができ、私はこの大学でもう少し頑張ってみようと思えることができま
した。受験に失敗したことばかりに目を向けて立ち止まるのではなく、AEP のクラスではなるべく英語だけで会話するように心がけたり、
英語だけで行われる授業を履修したり、前をむいて今自分が置かれた環境で何ができるか考えて行動しよう決めました。そうやってこの
大学で様々なことにチャレンジしてきた中で、特に学びになった経験が日本語教室です。

日本語教室は田中孝枝先生のゼミで行っていた活動で、NPO の方が運営しているいちよう団地で行われる日本語教室に参加し、在日外
国人の方に日本語を教えるという活動です。外国人の方に日本語を教えるということにもともと興味があり、1年生の秋学期に田中ゼミに
所属している先輩からの誘いで参加しました。日本語はもちろん、英語でもコミュニケーションをとることができない方に日本語を教える
ということも多く、伝えたいことがなかなか伝わらずはじめはとても苦戦していました。とにかく日本語を教えることに必死で、教える相
手のことを考えることができていませんでした。それに気づいた私は、まずは相手に心を開いてもらおうと思い、自分も相手の母国語に興
味をもって教えあいながら日本語が上達するようにサポートしました。そうすることで相手がどのように説明したら理解しやすいのか知る
こともでき、自分もその言語について知ることができるため、より楽しく分かりやすく教えることができるようになりました。この活動を
通じて私は人に物事を教える難しさややりがいを学び、それと同時に在日外国人に対する日本語サポート体制が整っていない日本の現状を
知ることができました。3年生になってからはこの日本語教室の活動を引き継ぐためサークルを立ち上げ、学内の日本語教室等の活動も展
開できるように頑張っています。この経験は現在行っている就職活動においてとても役に立っています。

今回私が皆さんにお伝えしたいことは、視野を広げて自分に何ができるか考えて行動してみる大切さです。人生は思い通りにい
かないことも沢山あります。しかし、マイナスな部分ばかりに目を向けて自ら視野を狭めてしまえば、そこにあるものにも気づけず、得
られるはずの知識や経験を取りこぼしてしまいます。視野を広げて今置かれている環境や状況で自分は何ができるかを考えて行動に起こし
てみる。そうすることで何か得られるものがあるのではないのでしょうか。



日本語教室の様子



AEP のクラスメイト (一部)